

『一心千里』

永田隆一

走って見れば、
見えてくる



第64回

「今年の秋は 雨か風か知らねども 今日のとめの草を取るべし」。お百姓さんのこの唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「兵法は平法なり」——石舟斎 日々の心がけ・行動が大切

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

柳生新陰流の開祖である石舟斎の言葉「兵法は平法なり」は、稽古鍛錬は平生の日常のなかで毎日するから上達する、と言っています。剣豪、宮本武蔵は鍛錬をこう説明しています。「鍛」は千日の稽古を示し、「練」は万日の稽古のことを示す。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

「今年」は「今年」の唄には覚悟を感じます。日々の積み重ねが収穫に直結しているという当たり前のことを理解しているのであります。

（毎月連載）